


〈夏の日の贈り物〉

- ・ 作詞者: 高木明子
- ・ 作曲: 加賀清孝
- ・ 拍子: $\frac{4}{4}$
- ・ 適切な速さ: Andante
- ・ 合唱形態: 混声二部合唱





[音楽記号]

Andante: アンダンテ, ゆっくり歩くような速さで *cresc.*: クレッシェンド, だんだん強く **V**: ブレス, 息継ぎ記号
p: ピアノ, 弱く **mp**: メゾピアノ, 少し弱く **mf**: メゾフォルテ, 少し強く **f**: フォルテ, 強く
dim.: ディミヌエンド, だんだん弱く **rit.**: リタルダンド, だんだん遅く  : フェルマータ, ほどよく伸ばす

〈心の中にきらめいて〉

- ・ 作詞者: 田崎はるか
 - ・ 作曲: 橋本祥路
 - ・ 拍子: $\frac{4}{4}$
 - ・ 適切な速さ: ♩=80 ぐらい
 - ・ 合唱形態: 混声二部合唱
- ・ 楽曲中には, ベートーヴェンのピアノソナタ第 8 番(悲愴)の第 2 楽章の旋律が使われている。
※ベートーヴェンの三大ピアノソナタ・・・ピアノソナタ第 8 番(悲愴), 第 14 番(月光), 第 23 番(熱情)

[音楽記号]

: セーニョ, (目印) **D.S.**: ダル・セーニョ, セーニョから : コーダ, Coda へ
Coda: コーダ, (目印, 結び)

〈サンタ・ルチア〉

- ・ 国: イタリア
- ・ 拍子: $\frac{3}{8}$
- ・ 適切な速さ: ♩=96~104 ぐらい

[音楽記号]

>: アクセント, その音を強調して

- ・ カンツォーネについて(p. 30)

「サンタ・ルチア」は, 1856 年にナポリで開かれたカンツォーネの歌祭りで発表されました。「カンツォーネ (canzone)」とはイタリア語で「歌」という意味ですが, 我が国では 19 世紀後半から 20 世紀初め頃に作られた, 「カンツォーネ・ナポリターナ(ナポリ風の歌)」のことを「カンツォーネ」と呼んでいます。

- ・ カンツォーネの歌い方: 明るく, 遙か遠くに響き渡る声で

次のページへ続く

〈運命〉

・正式名称:交響曲第 5 番ハ短調 作品 67

・作曲者:ベートーヴェン

・楽曲について(p. 47)

「交響曲第 5 番ハ短調」は、ベートーヴェンの最も有名な作品の一つです。「このように運命は扉をたたく」、これは第 1 楽章の冒頭の動機について、ベートーヴェン自身が語ったとされる言葉です。このことから、日本ではこの曲を「運命」とも呼んでいます。全部で 4 つの楽章からなり、第 1 楽章の冒頭の動機と似たリズムが他の楽章にも現れることなどが、作品に統一感を与えています。

・作曲者について(p. 47)

ベートーヴェンは、ドイツのボンに生まれ、宮廷に仕える音楽家であった父から音楽の手ほどきを受けました。21 歳のときに、当時の音楽の中心都市であったウィーンに出て、ピアノ奏者として活躍しながら作曲を学びました。そして、30 歳の頃には作曲家としても高い評価を得るようになりました。しかし、その数年前から耳に異常を感じ始め、ついには聴力をほとんど失ってしまいました。一時は病に苦しみましたが、それを乗り越えて、56 歳で亡くなるまで作品を書き続けました。

・各合唱の特徴

楽章	速さ	拍子
第 1 楽章	Allegro con brio	$\frac{2}{4}$
第 2 楽章	Andante con moto	$\frac{3}{8}$
第 3 楽章	Allegro	$\frac{3}{4}$
第 4 楽章	Allegro	$\frac{4}{4}$